「地域づくり」のヒント満載

デイホームえん　五十住和樹





毎年恒例の
職員によるフラワーアレンジメント

「暮らしネット・えん」第24回定例総会が6月21日、新座市立中央公民館で開かれました。今回の記念講演は東京都世田谷区在住の福祉ジャーナリスト中澤まゆみさん。同区の認知症基本条例づくりに取り組んだ経験などを約1時間語っていただきました。

この条例は2020年10月施行の「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」。希望という文字をタイトルだけでなく目的や基本理念など随所に散りばめています。基本理念は「(認知症の)本人一人ひとりが自分らしく生きる希望を持ち、どの場所で暮らしていてもその意思と権利が尊重され、本人が自らの力を発揮しながら、安心して暮らし続けることができる地域を作る」。条例には前文もあり「子どもから大人までの全区民が、現在及び将来にわたり認知症とともに生きる意識を高め、その備えをする」と宣言。認知症を高齢者だけの問題にしていないのが特徴です。

中澤さんは活動のポイントなどを具体的に解説。行政主導でなく市民が引っ張る条例づくりにするために、「うるさいおじさんとおばさんを地域にどれだけ作っていけるかが成功の鍵」と提唱し、会場からは「皆が考えているいろんな発想を持ち寄って話し合いをしていくのが大切」などの感想が出ていました。新座市の認知症施策推進委員会にはえんからも参加していて、とても参考になる講演でした。

これに先立つ総会では、小島美里代表理事が介護保険の厳しい現状を説明。「それでも絶望しない。ケアを続けながら言うべきことを言っていきたい」と決意を述べました。また、本年度の事業計画案や予算案など全議案が拍手で承認されました。